槍ヶ岳 飛騨沢スキー 日程:2009 年 4 月 11(土) ~ 12 日(日)

メンバー:L 白土(記録)、志満

トレーニング山行としてスキーで飛騨沢から槍ヶ岳をピストンしてきた。2日間とも晴天に恵まれ、テント装備を背負っての往復はいいトレーニングになった。

行程:4/11(土)新穂高駐車場4:00~9:40 槍平~13:30飛騨乗越~14:20槍ヶ岳山荘 (冬季小屋テント泊)

4/12(日)槍ヶ岳山荘 6:30~6:50 槍ヶ岳山 頂~8:30 槍ヶ岳山荘~槍沢~槍ヶ岳山荘 ~10:00飛騨乗越~11:10 槍平~14:30 新穂 高駐車場

1/25000 地形図: 穂高岳、槍ヶ岳、三俣蓮華岳、笠ヶ岳

4/11(土)

3:00 に起床し、4:00 に新穂高駐車場を出発する。ロープウェイ先のゲートは開いており、林道脇に駐車している車もある。林道のつづら折れを越えると雪が出始めシールで歩く。穂高平周辺はショートカットする。2年前の同じ時期にも来たが、そのときより雪は多い感じだ。前後にスキーヤー3パーティーほどいる。ザックが小さくこの時間に出発しているということは日帰りであろうか。白出小屋までは林道を快調に進み、その後は樹林帯に入る。滝谷出合からは滝谷の岩壁がよく見える。その先のデブリは

新雪のために表面はフラット化されて歩き やすい。槍平では先シーズンの正月休みの 雪崩事故現場を見てみたが、ここまで雪崩 が押し寄せてきたかと思うと、自然の驚異 を実感する。確かに雪崩れそうな谷ではあ るが、谷には大きな木もたくさん立ってい るし、まさかここまで雪崩が来るものなの かと認識を新たにする。あの日は菊地さん と蝶ヶ岳に登り、ひたすらかんじきでラッ セルしていた。大量の降雪と強風であった。 事故者の冥福を祈り、合掌する。ここまで の行動時間は5時間40分。まあまあのペー スだ。さらにどんどん飛騨沢を進むが、途 中に巨大雪壁と化したデブリがいくつもあ る。こんなものがどうやって出来上がった のか想像すらできない。雪崩に対しては講 習会に参加したり机上学習をしたりできる 限りの対策はしようと心掛けているが、実 際に巨大なデブリを目の当たりにするとと ても太刀打ちできるものではないことを実 感する。雪崩に巻き込まれたら即アウトだ。 いかに雪崩に巻き込まれないようにするか、 そこに注力しなくてはならない。飛騨沢は 大喰岳西尾根末端あたりから大きく右に曲 がり、斜度が増してくる。遙か遠くに飛騨



飛騨沢を登る

乗越が見えてきた。広い谷をひたすらにシ ールで直登する。日帰りパーティーとも同 じくらいのペースだ。直射日光で雪面がゆ るみ、シールが良く効くのでシール直登の まま飛騨乗越に到着。新穂高駐車場から9 時間30分、なかなかのペースだ。日帰り組 はここから滑り始めるが、我々はスキーを 背負い槍ヶ岳山荘へ向かう。小屋の前でや っと槍の穂先を拝むことができた。冬季小 屋の入り口は凍結しているので、ピッケル でこじ開けた。内部にも雪がたくさん入り 込んでいたが、その奥にテントを張り快適 そのもの。屋根の雪解け水をコッヘルで溜 めたので水を作る手間も省けた。ここは北 アルプスのど真ん中。360度の大パノラマ がすばらしい。後から縦走2人組みが到着 して、この日の冬季小屋利用は2パーティ ーのみだった。夕食のすいとんで体が温ま る。



槍の穂先

4/12(日)

飛騨沢は西に面しているため、午前中は日 が当たりにくく雪面がゆるみにくいので、 この日はゆっくりスタート。朝食後に山頂 をピストンする。山頂では縦走パーティー に写真を撮ってもらう。北鎌尾根もよく見 える。貸し切りの山頂にしばらく留まって、 大パノラマを堪能する。山屋にとってはこ の上ない光景だ。小屋に戻ると単独スキー ヤーが登ってきた。なんと 1:30AM に新穂高 を出て、7時間でここまで来たという。上 には上がいるものだ。今回、飛騨沢日帰り スキーヤーが多いのには驚いた。テントを 撤収し、歩行アイゼンで飛騨乗越まで戻る。 ここからは滑るだけだ。上部の雪面はやや 堅いが快適にガンガン滑り降りる。広い飛 **騨沢が貸し切りだ。お互いにデジカメで撮** 影しながらどんどん滑る。槍平周辺では雪 がだいぶ重くなっており、滑りにくい。無 事デブリ地帯も通過し、沢沿いに下る。白 出小屋手前の枝沢をシールで登り返す。穂 高平の下あたりの林道で雪がなくなったの で、スキーを担いで歩く。新穂高は夏のよ うな天気だった。



槍ヶ岳山荘冬季小屋

飛騨沢をスキーで登る場合、槍平で1泊するのが無難な計画だが、今回はトレーニングのためにあえてテント装備を背負って槍ヶ岳山荘まで登った。標高差2000mあるが天気さえよければ十分行動可能であることがわかった。そればかりか、日帰り組が多いことには驚いたし、スキーの機動力の高さを改めて認識した。無雪期に槍ヶ岳を日帰りで登るのは考えにくい。



山頂へ向かう



槍ヶ岳山頂



槍ヶ岳山荘と笠ヶ岳



広大な飛騨沢の滑走